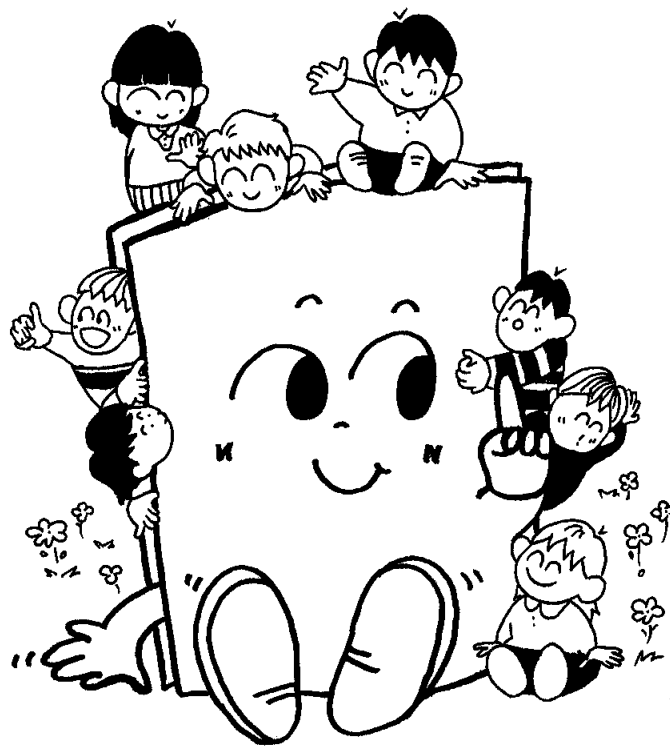


# 個別の指導計画 作成ハンドブック

～学習のつまずきへの  
ハイクオリティな支援～



(課題番号 14710118)

平成 14～16 年度 科学研究費補助金(若手研究(B)) 研究成果報告書

「学習障害児等の個別の指導計画作成支援マニュアルの開発に関する研究」

研究代表者 海津 亜希子

(独立行政法人 国立特殊教育総合研究所)

# 個別の指導計画 作成ハンドブック

～学習のつまずきへの

ハイクオリティーな支援～

## はじめに

この本は、平成 14 年度科学研究費補助金(若手研究(B)14710118)の助成を受けておこなわれた「学習障害児等の個別の指導計画作成支援マニュアルの開発に関する研究」をもとにして、まとめられました。研究の発端は、“LDの子どもたちに何か効果的な指導方法はないものか”という問いへの一つの答えを探すことにありました。

昨今、通常の学級の中で、状態像が理解しにくい子どもたちが存在すること、これらの子どもたちに対し、何らかの支援が急務であることがいわれています。LDの子どもたちも、支援を必要とする子どもたちの一部です。

「LDの指導法は？」と尋ねられ、即答できない背景には、LDと一口にいても、子どもによってあらず状態像が様々なことが挙げられます。つまり、LDという大きな枠で捉えつつも、個々を捉える視点が必要になるのです。

その子が“どういうつまづきをもっているのか、習得している部分・得意な力は何か、本人や保護者のニーズは何かなどの実態把握を行い”、“その子にあった目標を設定し”、“目標を達成するために、どのような指導の計画を立て”、“計画が適切であったかどうかの評価を行う”……。このように、個に焦点を当てた指導計画づくりがLDの子どもたちにとって不可欠であり、これが「LDの子どもたちにとっての効果的な指導方法は？」という問いへの一つの答えになるかもしれないと思うようになりました。これが個別の指導計画に関心をもち、取り組んだ所以です。

LDへのアプローチをきっかけに考え始めた個別の指導計画でしたが、気づいてみると、これは決してLDに限ったことではない、全ての子どもに通じる考え方であると今は感じています。

全ての子どもたち、そして、あらゆる場で子どもたちに向き合っておられる方々に、この本を贈りたいと思います。

独立行政法人 国立特殊教育総合研究所

海津 亜希子

## 目次

### この本の趣旨と構成

#### 第 I 章 個別の指導計画とは？

個別の指導計画とは	1
個別の指導計画作成までの流れ	1
個別の指導計画を立てることのメリットとは？	3

#### 第 II 章 子どもを知るところからスタート～実態把握(アセスメント)～

実態把握(アセスメント)でのポイント	5
このプロセスでとらえること～「えがお君の場合」～	6
子どものつまずきを把握するツール	7
子どものつまずきの要因を探る	10

#### 第 III 章 指導・支援がめざす方向は？～目標の設定～

目標の設定でのポイント	13
このプロセスでとらえること～「えがお君の場合」～	14
いろいろなレベルの目標	15
目標として取り上げる領域	16
長期目標の設定の仕方	17
目標を考えていくうえで大切なこと part1	18
Quiz	18
一人の子どもについて複数の人と話すことの重要性 ～研究結果から～	19

#### 第 IV 章 具体的な指導・支援のマップを描こう～指導計画の作成～

指導計画の作成でのポイント	21
このプロセスでとらえること～「えがお君の場合」～	22
具体的(簡潔)かつ観察・評価可能な目標とは？	23
短期目標の設定の仕方	25
長期目標と短期目標の関係(2つのタイプ)	26

短期目標の中に含む条件とは？どのような手だてを用意したらよいか？	27
目標達成の基準	29
子どもの得意な学習スタイルを指導に活かす	31
個別の指導計画の具体例～「えがお君」を例に～	33
目標を考えていくうえで大切なこと part2	37
Quiz	37
<b>第V章 個別の指導計画をもとに本番開始～指導の展開～</b>	
指導の展開でのポイント	39
このプロセスでとらえること～「えがお君の場合」～	40
指導の際の一般的な配慮	41
日々の記録の取り方	47
<b>第VI章 つぎにつながる評価を！～総合評価～</b>	
総合評価でのポイント	49
このプロセスでとらえること～「えがお君の場合」～	50
評価の記述の仕方	51
数値化するのが難しい課題をどう評価するか	52
ゴールはつぎのスタートラインにつながる	54
個別の指導計画がもたらすメリットは～通常の学級での実践研究結果から～	55
<b>さいごに</b>	57
<b>個別の指導計画に関する研究をすすめるにあたり参考にした文献</b>	58
<b>資料</b>	63
①個別の指導計画作成に関するセルフチェックリスト	
②学習領域スキル別つまずきチェックリスト	
③学力のつまずき要因	
④個別の指導計画書式（長期目標と短期目標を対応させるタイプ） （教科で立てるタイプ 小学校/中学校用）	
⑤その他の書式（日々の記録用紙） （作文の評価用紙）	
<b>イラスト</b> （表紙および54ページ） 武重朋子（長野県立上田養護学校）	

## この本の趣旨と構成

### ● この本の趣旨

この本は、「個別の指導計画ってどんなもの？」「どうやって作ればいいの？」「作っているが、今のやり方でいいの？」などの疑問に対して、少しでもお答えできればと思っています。

さらには、次のような特徴をもっています。

◇ 通常の学級をはじめ、様々な場で、LD等の子どもたちとかかわっていらっしゃる先生方と行った研究をもとに書かれています。

研究を通して、個別の指導計画を作成することによる効果や、作成にあたっての課題が徐々に明らかになってきました。この本では、多くの先生方が、作成に際して難しかった内容について、特に詳しく述べています。

◇ LDと個別の指導計画との関係を重視しています。

通常の学級の中で、特別な支援を必要とする子どもたちの中にLDがいます。しかし残念ながら、「LDのある子どもたちには、こういう指導が効果的！」という端的かつ明確な内容を断言することはできません。なぜなら、LDといっても十人十色、子どもによって様々であり、10人いれば、10通りの指導法が存在するからです。したがって、その子どもにあった指導・支援を行うためには、その子どものことを知り、得られた情報からどのような指導・支援の方向につなげるかを考えるというプロセスが不可欠になります。これがまさに、個別の指導計画を作成していくプロセスであり、LDの子どもたちにとって、大きな支援の一つになると思われました。

◇ 学習面に焦点をあてています。

行動や社会性などの面でつまずきがある場合、周囲への影響もあることから、比較的対応が速やかになされやすい傾向にあります。指導や支援に関し、個別の指導計画が作成されることもしばしばです。一方、行動面に顕著なつまずきがみられず、学習面でのみつまずいている場合、その子どもに対する支援の優先度、緊急性は低くなりがちです。しかし、学校で学習に充てる時間の多さ、子どもにとって学習は基本的な営みであることから考えても、学習のつまずきを軽視することはできません。そこで、本書では特に学習面に焦点をあてた個別の指導計画作成につ

いて取り上げます。

◇ 全ての子どもたちの指導・支援に通じると考えます。

主にLDのある子どもを想定し個別の指導計画について話をすすめていきますが、これは決してLDに限ったことではありません。

## ● この本の構成

第Ⅰ章では個別の指導計画についての概説を述べていますが、第Ⅱ章以降は、具体的に個別の指導計画の作成方法について説明しています。個別の指導計画を作成する際には、「子どもの実態を把握する段階」「目標を設定する段階」「評価する段階」など、いくつかのプロセス分けることができます。このようなプロセスごとに、個別の指導計画を作成するにあたって重要と思われる点(ポイント)を挙げ解説していきます。Ⅱ章以降の構成は、具体的には以下のようになっています。

### <Ⅱ章～Ⅵ章の構成>

- ① **プロセス(例:「実態把握」「指導計画作成」)でのポイント**  
→各プロセスにつき4～11のポイントを挙げています。
- ② **プロセスでおさえること ～具体例を通して～**  
→①のポイントをおさえた個別の指導計画の具体例を挙げています。  
(「えがお君」という子どもを例に、個別の指導計画を作成していきます)
- ③ **ポイントについての具体的な説明**  
→①のポイントの中で、特に解説が必要な内容についてピックアップし、説明しています。